

公募型プロポーザル方式により委託業務の受託者を選定するので、次のとおり公告する。

令和6年6月21日

奈良県知事 山下 真

1. 業務の概要

(1) 委託業務名

「奈良の食」ファンの創出・拡大事業委託業務

(2) 業務の目的

首都圏は人口が密集している地域であり、国内最大の消費地である。また、翌年に大阪・関西万博の開催を控える関西地方とともに、これら2つの地域以外との人の往来が盛んであることから、首都圏および関西地方での食材のPRにより、その認知度の向上、販路の拡大等において大きな効果が期待できる。

そこで、「奈良の食」の魅力発信拠点として位置づける奈良まほろば館のレストラン「TOK i」において、上質な「奈良の食」を体感できるPRを行うことで、「奈良の食」の認知度およびイメージを向上させる。また、首都圏および関西地方の飲食施設において、県産食材を活用したメニューをフェアとして展開し、県産食材の喫食の機会を提供することで、より幅広い層への認知度の向上を図る。

これらの目的を達成することにより、県産食材の販路拡大による県内生産者の所得の向上および食を目的とした奈良への訪問数の増加を目指す。

(3) 委託業務内容

- ① レストラン「TOK i」を活用した上質な「奈良の食」の魅力発信
- ② 「奈良の食」フェアイベントの実施

(4) 業務の仕様等

上記業務の仕様については、別途配布する「「奈良の食」ファンの創出・拡大事業委託業務説明書」(以下、「業務説明書」とする。)のとおり。

(5) 履行期間

契約締結日から令和7年3月31日(月)まで

(6) 委託上限額

9,680,000円(消費税及び地方消費税の額を含む。)

2. 参加資格

この委託業務における受託者募集に参加できる者は、業務の趣旨を十分に理解し、円滑に遂行できる事業者で、次に掲げる要件をすべて満たす者とする。

- (1) 奈良県における物品購入等に係る競争入札の参加資格等に関する規程(平成7年12月27日 奈良県告示第425号)による競争入札参加資格者で、営業種目Q5(広告・イベント業務)または営業種目Q7(役務の提供・諸サービス)のいずれかに登録されている者であること。なお、新たに入札資格を得ようとする者は、参加表明書の提出時までに資格者の登録申請を終えていることを条件とする。
- (2) 地方自治法施行令(昭和22年政令第16号)第167条の4の規定に該当しない者であること。
- (3) 国税及び地方税を滞納していない者であること。
- (4) 奈良県の入札参加停止の措置期間中でない者であること。
- (5) 民事再生法(平成11年法律第225号)の規定による再生手続開始の申立て、会社更生法(平成14年法律第154号)の規定による更生手続開始の申立て、又は破産

法（平成16年法律第75号）の規定による破産手続開始の申立てが行われている者でないこと。

- (6) 銀行の取引停止、又は差押えを受けていない者であること。
- (7) 役員に法律行為を行う能力を有しない者、破産者で復権を得ない者及び禁固以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から2年を経過しない者がいる法人でないこと。
- (8) 役員等（法人にあっては非常勤を含む役員及び支配人並びに支店又は営業所の代表者、その他の団体にあっては法人の役員と同等の責任を有する者、個人にあってはその者及び支配人並びに支店又は営業所を代表する者をいう。以下同じ。）が暴力団員（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号。以下「暴対法」という。）第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）でないこと。
- (9) 暴力団（暴対法第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）又は暴力団員が経営に実質的に関与していないこと。
- (10) 役員等が、自社、自己若しくは第三者の不正な利益を図り、又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用していないこと。
- (11) 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して資金等を提供し、又は便宜を供与するなど直接的若しくは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、又は関与していないこと。
- (12) 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していないこと。

3. 失格事項

応募者が次のいずれかに該当する場合は、失格とする。

- (1) 参加資格に定めた資格が備わっていないとき。
- (2) 複数の提案書等を提出したとき。
- (3) 提出のあった提案書等が様式に示された内容に適合しないとき。
- (4) 提出書類に虚偽又は不正があったとき。
- (5) 受付期限までに提案書の所定の書類が整わなかったとき。
- (6) そのほか不正な行為があったとき。

4. 業務説明書の配布

- (1) 配布期間 令和6年6月21日（金）から令和6年7月4日（木）までの間に、下記担当部署または奈良県豊かな食と農の振興課ホームページから入手するものとする。ただし、担当部署における配布は、午前9時から正午まで、午後1時から午後5時までとし、奈良県の休日を定める条例（平成元年3月31日奈良県条例第32号）第1条に規定する県の休日（以下「県の休日」という。）を除く。
- (2) 担当部署 奈良県 食農部 豊かな食と農の振興課 販売・流通係
TEL 0742-27-5427 / FAX 0742-26-6211
住所 〒630-8501 奈良市登大路町30番地

5. 質問の受付及び回答

- (1) 受付期限 令和6年6月25日（火）午後5時まで。
ただし、受付は午前9時から正午まで、午後1時から午後5時までとし、県の休日を除く。
- (2) 提出先 4（2）の担当部署と同じ
- (3) 提出方法 FAXで提出し、電話にて送付した旨を連絡すること。

- (4) 回 答 令和6年6月28日(金)までに、質問に対する回答を奈良県豊かな食と農の振興課ホームページにおいて公表するものとする。

6. 参加表明書の提出

- (1) 提出期限 令和6年7月4日(木)午後5時まで。
ただし、受付は午前9時から正午まで、午後1時から午後5時までとし、県の休日を除く。
- (2) 提出先 4(2)の担当部署と同じ
- (3) 提出物および提出部数
- ・参加表明書(様式1-1) ……1部
 - ・事業者概要(様式1-2) ……1部
- (4) 提出方法 持参または郵送(郵送の場合は簡易書留等の確実な方法によるものとし、提出期限必着とする。)

7. 提案書の提出を依頼する者の選定

参加表明書を提出した者のうち、参加資格を確認し、提案書の提出を依頼する者を選定する。

- (1) 参加表明書を提出した者には、提案書の提出依頼または非選定を通知する。
- (2) 非選定通知書を受けた者は、非選定通知書の通知日の翌日から起算して7日(県の休日を除く)以内にその理由の説明を求めることができるものとする。
- (3) 上記(2)の回答は、説明を求めることができる最終日の翌日から起算して10日(県の休日を除く)以内に書面により行うものとする。
- (4) 非選定理由の説明書請求の受付方法、場所及び受付期間は以下のとおりとする。
- ①受付方法 持参または郵送(郵送の場合は簡易書留等の確実な方法によるものとし、提出期限必着とする。)
 - ②受付場所 4(2)の担当部署と同じ
 - ③受付期間 上記(2)のとおり。ただし、受付は午前9時から正午まで、午後1時から午後5時までとし、県の休日を除く。

8. 提案書の提出

- (1) 提出期限 令和6年7月17日(水)午後5時まで。
ただし、受付は午前9時から正午まで、午後1時から午後5時までとし、県の休日を除く。
- (2) 提出先 4(2)の担当部署と同じ
- (3) 提出物および提出部数
- ①提案書(様式2-1) ……1部
 - ②業務に関する提案(様式2-2) ……正本1部、副本4部
正本の右肩にのみ、商号または名称を記載する。
 - ③見積書(様式任意) ……1部
業務に要する経費の内訳を記載した見積書を作成すること。
- (4) 提出方法 持参または郵送(郵送の場合は簡易書留等の確実な方法によるものとし、提出期限必着とする。)
- (5) 提案書の作成上の留意事項
- ①プロポーザルは業務における具体的な取組方法について提案を求めるものであり、成果の一部の提出を求めるものではない。
 - ②提案書は日本工業規格A4サイズで作成すること

- ③ 正本の右肩には、商号または名称を記載し、副本には、記載しない。また、提案書右肩に記載の商号または名称以外に、提出者を特定することができる内容の記述（具体的な社名やロゴマーク等）を記載しないこと。記載がある場合はその項目を無効とする。
- ④ 提案書の作成に用いる言語は日本語、通貨は日本円、単位は日本の標準時及び計量法に拠るものとする。
- ⑤ 提案書の作成および提出に係る費用は、提出者の負担とする。
- ⑥ 提出された提案書は返却しない。なお、県は提案書を無断で他に使用しない。
- ⑦ 提案書がこの書面及び別添の様式に示された条件に適合しない場合は、無効とする。
- ⑧ 提案書の提出を辞退する場合は、辞退届（任意様式）を提出すること。

9. 提案書を特定するための評価基準

提案書の評価基準は別添1のとおり。

10. プレゼンテーションの実施

提案者は提出した提案書に基づき、プレゼンテーションを実施し、質問に答えるものとする。プレゼンテーションの実施日時、場所は以下のとおり。

- (1) 実施日 令和6年7月23日（火）
- (2) 実施場所 奈良県庁内会議室（予定）。詳細は、後日提案者に対して通知する。

11. 受託者の特定

提案書及びプレゼンテーションの内容を評価基準により審査し、最も高い評価を得た事業者を受託者として特定する。選定結果は奈良県豊かな食と農の振興課ホームページにて公表する。

12. 特定、非特定の通知

- (1) 提案者には、特定または非特定を通知するものとする。
- (2) 非特定通知書を受けた者は、非特定通知書の通知日の翌日から起算して7日（県の休日を除く）以内にその理由の説明を求められることができる。
- (3) 上記（2）の回答は、説明を求められることができる最終日の翌日から起算し10日（県の休日を除く）以内に書面により行うこと。
- (4) 非特定理由の説明請求の受付方法、受付場所及び受付期間は以下のとおり。
 - ①受付方法 説明請求書（様式は自由で、宛先は奈良県豊かな食と農の振興課長とする。）を作成し、持参または郵送（郵送の場合は簡易書留等の確実な方法によるものとし、受付期限必着とする。）
 - ②受付場所 4（2）と同じ。
 - ③受付期限 上記（2）のとおり。ただし、受付は午前9時から正午まで、午後1時から午後5時までとし、県の休日を除く。

13. 契約の締結

11により特定された者と契約締結の交渉を行うものとする。契約交渉が不調のときは、11により順位付けられた提案者の上位の者から順に契約締結の交渉を行うものとする。

14. その他留意事項

- (1) 提案書に虚偽の記載をした場合は、当該業務の提案書を無効とする。
- (2) 提案書提出期限後における記載内容の変更（追加）は、原則として認めない。

- (3) 提出された提案書は、特定を行う作業に必要な範囲において複製を作成することができる。
- (4) 提出された提案書およびその複製は、提案書の特定以外に提出者に無断で使用しない。
- (5) 提案書提出後であっても、契約の相手方として特定されるまでは、辞退することができる。また、辞退したことを理由として以後の特定等に不利益な取扱いを受けるものではない。
- (6) 提出された書類は返却しない。
- (7) この公募型プロポーザルへの参加に係る経費は、参加者の負担とする。
- (8) 本業務内容は、協議により一部変更することがある。
- (9) 本業務を一括して第三者に委託し、又は請け負わせることはできない。ただし、業務を効率的に行ううえで必要であると認めるときは、県と協議のうえ、業務の一部を委託することができる。
- (10) 成果物及び構成素材に関わる知的財産権等の取扱いは、次のとおりとする。
 - ① 構成素材に含まれる第三者の著作権その他の権利についての交渉・処理は、受託者が行うこととし、その経費は委託料に含むものとする。
 - ② 本業務に関する著作権（制作過程で作られた素材等の著作権も含む。）その他の権利は、そのすべてが奈良県に帰属するものとする。
- (11) 本業務を受注しようとする者は、以下の遵守事項を理解した上で受注することとする。
 - ① 奈良県公契約条例の趣旨にのっとり、公契約の当事者としての社会的責任を自覚し、本業務を適正に履行すること。
 - ② 本業務の履行に当たり、次に掲げる事項その他の法令を遵守すること。
 - (ア) 最低賃金法第4条第1項に規定する最低賃金の適用を受ける労働者に対し、同法第3条に規定する最低賃金額（同法第7条の規定の適用を受ける労働者については、同条の規定により減額して適用される額をいう。）以上の賃金（労働基準法第11条に規定する賃金をいう。以下同じ。）の支払を行うこと。
 - (イ) 健康保険法第48条の規定による被保険者（同法第3条第4項に規定する任意継続被保険者を除く。）の資格の取得に係る届出を行うこと。
 - (ウ) 厚生年金保険法第27条の規定による被保険者（同条に規定する70歳以上の使用される者を含む。）の資格の取得に係る届出を行うこと。
 - (エ) 雇用保険法第4条第1項に規定する被保険者について、同法第7条の規定による届出を行うこと。
 - (オ) 労働保険の保険料の徴収等に関する法律第4条の2第1項の規定による届出を行うこと。
 - ③ 本業務の一部を、他の者に請け負わせ、若しくは委託し、又は本業務の履行に他の者が雇用する労働者の派遣を受けようとするときは、当該他の者に対し、この遵守事項を周知し、遵守するよう指導すること。
- (12) その他の定めのない事項については、地方自治法、同法施行令及びその他関係法令並びに奈良県個人情報の保護に関する法律施行条例、奈良県会計規則及びその他の奈良県が制定する関係条例・規則等に従うこと。

別添 1

提案書評価基準

評価項目	評価基準	配点	合計
運営能力	①業務目的、業務内容が十分に理解されており、本業務を円滑かつ確実に遂行するためのスケジュールが示されているか。	5	10
	②業務遂行に必要な組織体制が整備され、適切に人員が配置されているか。また、責任者が配置されているか。	5	
企画力	レストラン「TOK i」を活用した上質な「奈良の食」の魅力発信		
	③「奈良の食」の魅力とともにその背景にある歴史や文化が伝えられる内容であるか。	15	35
	④ターゲットとする層の参加が期待できるか。	10	
	⑤実施内容の情報発信の手法が、ターゲットとする層に「奈良の食」とTOK iの魅力伝えることができ、イベント実施後の奈良への誘客に効果的な手法であるか。	10	
	「奈良の食」フェアイベントの実施		
	⑥フェアの実施店舗は、魅力発信に効果的な店舗が選定され、効果的な集客の取組が企画されているか。	15	45
	⑦メニュー開発の支援方法は県産食材や生産者の魅力を伝えるのに効果的で、かつ、継続的な取り引きにつながるものであるか。	15	
⑧宣伝・広報や実施内容の情報発信の手法が、フェアイベントの周知や「奈良の食」の魅力発信に効果的なものであるか。	15		
業務コストの妥当性	⑨提案内容を実現するための経費が漏れなく盛り込まれており、妥当な金額であるか。	10	10

○審査員は、5段階評価で採点する。その点数に事務局で換算係数を掛けて評価点とする。
(評価区分)

5点…優れている 4点…やや優れている 3点…普通 2点…やや不十分 1点以下…不十分

○評価点合計の最高点が2者以上で同点の場合は、「企画力」→「実施能力」→「業務コストの妥当性」の順位により、評価項目の合計点により決定する。

○各評価項目得点の5割以上かつ評価点合計が6割以上であることを特定の要件とする。